

## 2011 年度研究大会

## 東京国際大学にて

## 10 月 22・23 日に実施

2011 年度 (第 40 回) の研究大会は、2011 年 10 月 22 日 (土)・23 日 (日) に、東京国際大学 (埼玉県川越市) で開催され、本年度も JSSEES との合同大会となります。多数の皆様のご参加をお待ちしております。同大学までのアクセスは、池袋から急行で約 35 分、最寄駅から徒歩 5 分です。

### 1. 共通論題の企画案

#### 「ソ連崩壊 20 年とその後の世界」

周知のごとく、昨年度の共通論題は「体制転換の 20 年ーロシア・東欧の軌跡」であったので、今回のタイトルは一見すると似ている。しかし、企画の狙いはかなり異なる。すなわち今回の報告とそれに続くパネル・ディスカッションによって目指すのは、20 年前、ソ連崩壊という大きな転換点を迎えた時点で、われわれの多くが了解し、予期したものの背後にあった認識の枠組みを明らかにし、何故そのように了解し、予想したのか、またその枠組みがどのように 20 年の間に変化したのか、検討することである。言い換えれば、あの時、われわれはどのように事態を受けとめたのか、何故そのように受けとめたのか、1991 年の時点での理解や展望は、その後の 20 年の変化の中でどのような意味をもったのか、問い直すことである。

疑いもなく、ソ連崩壊は、われわれが研究対象とする地域ばかりか、地域を超えた世界に衝撃を与えた事件であった。必然的に、あの時点での認識の枠組みは、ロシア(ソ連)・東欧地域を超えた世界で起こっている事態をも射程に入れるものであった。あるいは、世界各地においてそれまで起こっていた歴史を整理し、将

来を展望したものであった。それだけ、あの時点で掘り所とした認識の枠組み、あるいは理論的道具立ては、自覚的であれ、無自覚的であれ、ロシア(ソ連)・東欧地域の枠外で生み出されたものに影響されていた。今振り返るとき、そうした認識の枠組みや理論的道具立ては、われわれが研究する地域と地域を超える世界の認識にどのような方向性を与えたのか。単純化して言えば、その後の世界を理解する助けとなったのか、それともミスリードし、「想定外」を引き起こしたのか。

20 年間の後知恵を利用して、改めて過去の認識の枠組みや視座を問い直すのは、今の立場を正当化するためではない。現在依拠する分析枠組みや視座を明確化し、今後進むべき方向を探る作業となると考えるからである。以上が、今年度の大会共通論題の趣旨である。

(横手慎二大会企画委員長, 慶應義塾大学)

### 2. 自由論題報告募集 (6 月 15 日締め切り)

自由論題報告を希望される会員は、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告のタイトル、⑥報告要旨(約 400 字)を、6 月 15 日 (必着) までに、学会事務局 (jarees\_office@yahoo.co.jp) までメールでお知らせ下さい。なお、この報告要旨は、理事会での承認及び分科会への割り振りを決定する際の参考にするためのもので、大会当日に配布する予稿集ではありません。予稿集の提出要領等については、事務局から別途ご案内します。なお、現時点において大会プログラムの詳細は未定ですが、自由論題報告は研究大会 2 日目 (10 月 23 日) の午前中に予定されております。

また、自由論題の報告希望者が、報告可能人数を上回った場合には、①同一会員が 2 年連続で報告するのを避ける、②過去の報告回数の少ない会員を優先する、③当学会における報告として論題が適切かどうかを考慮する、という原則により理事会で調整させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

### 3. 報告を行う院生会員に対する旅費の助成

昨年度より、自由論題報告を行う院生会員に対して、旅費の助成制度を導入しております。本制度は3か年の時限措置であり、残すところ2011年（東京国際大学）及び2012年（関西地区で予定）の研究大会に関してのみ適用されます。

昨年度の旅費の支給件数が1件（約1万円）のみであったことから、去る2月の理事会において5万円まで上限を引き上げることが決定されました。交通費、宿泊費、懇親会費などが助成の対象となり、領収書提示による実費の支給とします。なお、近距離の場合には、運賃検索画面の提示で代用することが可能です。

対象者の条件は、①助成を受けようとする年度も含めて年会費を納めていること、②他から旅費等の支給を受けていないこと、③助成を受けた後も学会活動を継続する見込みであることです。

多くの院生会員の皆様方が、奮ってご応募いただけることを期待しております。

### 2. 会誌編集委員会報告

(1) 学会誌第39号(2010年版)の編集状況として、共通論題に関しては論文2本とパネル・ディスカッションの記録が、自由論題に関しては論文4本、研究ノート1本、書評3本が掲載されることが報告された。

(2) 研究奨励賞に関しては、40歳未満の会員による掲載論文のうち、査読評価の高いもの2本が候補に選定されたことが報告され、候補論文が承認された。

(3) 研究奨励賞の選考委員として、袴田茂樹(青山学院大学、委員長)、宇山智彦(北海道大学)、中村裕(秋田大学)、羽場久美子(青山学院大学)、宮本勝浩(関西大学)の各理事が選任された。

### 3. 若手研究者研究奨励制度

(1) 研究奨励基金の執行状況が報告されるとともに、研究大会で報告を行う院生会員に対する旅費支給の上限を5万円に引き上げることが承認された。

(2) 追加の院生幹事2名(中井遼早稲田大学大学院、西山美久九州大学大学院)が承認された。

### 4. 2011年度研究大会について

(1) 共通論題のテーマを、「ソ連崩壊20年とその後の世界」にすることが決定された。

(2) 企画委員として、横手慎二(慶應義塾大学、委員長)、上垣彰(西南学院大学)、宇山智彦(北海道大学)、黒岩幸子(岩手県立大学)、左治木吾郎(東京国際大学)、羽場久美子(青山学院大学)、兵頭慎治(防衛研究所)の各理事及び会員が選出された。

### 5. 2012年度4学会合同大会について

(1) JCREES 幹事会による決定事項として、ロシア文学会が主務学会となって同志社大学で実施することが報告されるとともに、これに合わせて当学会の大会開催校を検討していくことが確認された。

(2) 合同大会準備委員会への代表者派遣に関して、2012年度研究大会の企画委員が選出されるまでの間、兵頭事務局長が担当することが了承された。

### 6. その他

羽場学術会議担当理事より、日本学術会議への研究者推薦について報告が行われた。

## 最近の理事会議事録より

2011年2月27日(土)に上智大学で、2010年度第3回目の理事会が開かれ、以下のような報告および審議が行われました。

#### 1. 事務局報告

(1) ニューズレターは原則として年2回の発行であるが、新制度の導入や規程改正などがあったため、増刊号として第22号を2月初旬に発行したことが報告された。

(2) 天理大学における2010年度研究大会の会計報告が行われた。

(3) 2010年度中間決算が報告された。

(4) 2月時点の会費納入率が81%に上昇したこと、年度末に会費の督促を行うことが報告された。

(5) 国立情報学研究所によるHPサーバーの無償提供が2012年度末に終了することから、新サーバーの借上げに関する検討を進めていくことが報告された。

## (資料3) 2010年度決算及び2011年度予算案(2011年3月31日現在)

収入の部				
	2010年度予算	2010年度決算	2011年度予算	
前年度繰越金	6,339,315	6,339,315	7,093,164	
会費 (注1)	正会員	2,650,000	2,610,000	2,540,000
	シニア会員	150,000	160,000	150,000
	院生会員	170,000	164,000	150,000
	法人会員	80,000	70,000	80,000
寄付	40,000	57,000	40,000	
利息	500	285	250	
雑収入	100,000	60,137	60,000	
<b>当年度の収入合計</b>	<b>3,190,500</b>	<b>3,121,422</b>	<b>3,020,250</b>	
<b>収入総計</b>	<b>9,529,815</b>	<b>9,460,737</b>	<b>10,113,414</b>	
支出の部				
	2010年度予算	2010年度決算	2011年度予算	
研究大会開催費	300,000	290,660	400,000	
会誌発行費	800,000	785,028	800,000	
広報費	200,000	170,975	300,000	
事業費(注2)	40,000	30,000	40,000	
事務局費	300,000	198,875	300,000	
会議補助費	700,000	556,390	700,000	
会員名簿作成費	150,000	105,000	0	
送料・通信費	150,000	76,530	100,000	
口座振替料金・振込手数料	50,000	39,295	50,000	
予備費(注3)	500,000	55,020	300,000	
<b>当年度の支出合計</b>	<b>3,190,000</b>	<b>2,307,773</b>	<b>2,990,000</b>	
<b>若手研究者奨励基金(注4)</b>	<b>1,000,000</b>	<b>59,800</b>		
<b>次年度への繰越金</b>	<b>5,339,815</b>	<b>7,093,164</b>		
<b>支出総計</b>	<b>9,529,815</b>	<b>9,460,737</b>		

注1 2011年度予算案は、正会員83%、シニア会員90%、院生会員70%、法人会員100%の納入率で試算

注2 日本ロシア・東欧研究連絡協議会(JCREES)及び日本学術会議地域研究学会連絡協議会の分担金

注3 理事会開催時の施設使用料

注4 2010年度より新設し、予算から別立てとする

## 『ロシア・東欧研究』 投稿募集

論文、研究ノート、書評の原稿を募集しています。応募締め切りは9月15日、原稿提出期限は11月末日です。研究大会における自由論題報告者のみならず、多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。執筆要領については、学会HPまたは学会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をご覧ください。また、研究ノートや書評も募集しておりますので、奮ってご応募くださいますようお願いいたします。なお、学会誌のバックナンバーを実費で配布しております。希望される方は、事務局までお問い合わせください。

### 投稿申込・原稿送付先

ロシア・東欧学会 会誌編集委員会  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1  
神戸大学大学院経済学研究科 吉井研究室 気付  
TEL (078) 803-6844 / FAX (078) 803-7293  
e-mail : yoshii@econ.kobe-u.ac.jp

## 事務局からのお知らせ

### 1. 2011年度会費納入のお願い

2011年度の年会費は、以下の通りとなっておりますので、お早目の納入をお願い申し上げます。会費に加えて、ご寄付は金額に関わらずお受けしております。

送付しました払込取扱票を使用して郵便局でお支払いの場合、払込手数料は学会負担となります。払込票受付型ATMでお支払いいただきますと、窓口払いに比べて、学会が負担する手数料が120円から80円に減額となりますので、経費削減にご協力いただけますと幸いです。受領証は、払込を証明するものですので、大切に保管してくださいませようお願いします。

ゆうちょ銀行以外の他行（海外を含む）からご送金いただくことも可能です。その場合は、送金口座番号が異なりますのでご注意ください（巻末参照）。その際は、誠に恐れ入りますが、手数料をご負担ください。

前年度までの年会費未納の方は、誠に恐縮ですが、合わせてお支払い下さい。規定により、1年以上未納の方には学会誌等の送付を中断し、3年未納となりまずと理事会の承認を経て退会扱いとさせていただきますしております。ご不明の点がございましたら、事務局までメールにてお問い合わせ下さい。

一般会費	10,000円(個人の会員)
法人会費	20,000円(団体の会員)
シニア会費	5,000円(70歳以上で退職された会員)
院生会費	5,000円(院生及びこれに準じる会員)
院生特別会費	4,000円(JSSEES, ロシア史研究会, ロシア文学会に加入する院生会員)

### 2. 院生幹事の交代について

院生幹事の伏田寛範（京都大学）さんと加藤美保子（北海道大学）さんが院生幹事から外れ、2月の理事会にて中井遼さん（早稲田大学大学院）、西山美久（九州大学大学院）の2名が新たに院生幹事に選出されました。

#### 《編集後記》

このたびの東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。また、会員の皆様の中で、被災された方がいらっしゃいましたら、何らかの支援策を検討させていただきますので、事務局までお申し出ください。（兵頭）

## ロシア・東欧学会ニューズレター 第23号（2011年5月発行）

《発行》ロシア・東欧学会事務局 兵頭慎治

住所：〒102-8554  
東京都千代田区紀尾井町 7-1  
上智大学外国語学部ロシア語学科 気付  
FAX: 03-3238-3087  
E-mail: jarees\_office@yahoo.co.jp  
http://www.soc.nii.ac.jp/roto/index.html

ゆうちょ銀行（加入者名：ロシア・東欧学会）  
郵便局での払込：00150-8-177731  
他行からの送金：〇一九(019)店  
当座預金 0177731